

## 要旨

【研究目的】本研究の目的は、子どもが出産に立会っていた産婦の体験、特に産婦が子どもや家族に対しどのような思いを持ったのかを質的に明らかにすることである。

【研究方法】本研究は、子ども立会い出産を行った産婦への半構成的面接法により、家族の関わりにおける分娩期の産婦の体験を分析した、質的記述研究である。研究参加者は、妊娠期から子ども立会い出産を希望している産婦であった。得られたデータは、質的帰納的に分析し、コアとなるカテゴリを抽出した。なお、本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の審査を経て実施した(承諾番号：14-069)。

【研究結果】子ども立会い出産を行っている助産所 1 施設において、子ども立会い出産をした 6 名の経産婦にインタビューを行った。その結果より、子どもが出産に立会った産婦の体験の中には、『家族出産に望むこと』と『分娩期の産婦の体験』が抽出された。

『家族出産に望むこと』は、2 つのコアカテゴリ【家族の絆の深化】【子どもの成長】、3 つのカテゴリが抽出された。【家族の絆の深化】には《きょうだいの絆を強める》《家族の絆を深める》の 2 つのカテゴリと、4 つのサブカテゴリから構成された。【子どもの成長】には《出産は子どもの成長の機会》というカテゴリと、それに対する 3 つのサブカテゴリから構成された。『分娩期の産婦の体験』は、8 つのコアカテゴリと 16 つのカテゴリが抽出された。子ども立会い出産をした産婦の分娩期における体験は、時間軸にそって、陣痛が強くなるまでの母親の体験、陣痛増強時の体験、分娩第 4 期の体験にわけられた。

陣痛が強くなるまでの母親の体験では、【家族出産への強い思い】【子どもに対する心配】【子どもが居ることによる母親の不安】【子どもを見てくれる人の大きな存在】という 4 つのコアカテゴリが抽出された。陣痛増強時の体験では、【家族の存在が力になる】【陣痛と子どもへの思い】という 2 つのコアカテゴリが抽出された。分娩第 4 期の体験では、【立会った子どもへの思い】【緊張からの解放】という 2 つのコアカテゴリが抽出された。

【結論】子ども立会い出産をした産婦は、家族の絆の深化や子どもの成長を望み分娩を体験していた。産婦の体験は時間軸にそって、陣痛が強くなるまで、陣痛増強時、分娩第 4 期において異なっていたが、子どもを見てくれる人の存在や家族の存在が重要であること、緊張から解放される環境が重要であることが明らかとなった。また、産婦が産痛によって様々な心理的状态になることを立会う家族は理解することが重要であると示唆された。